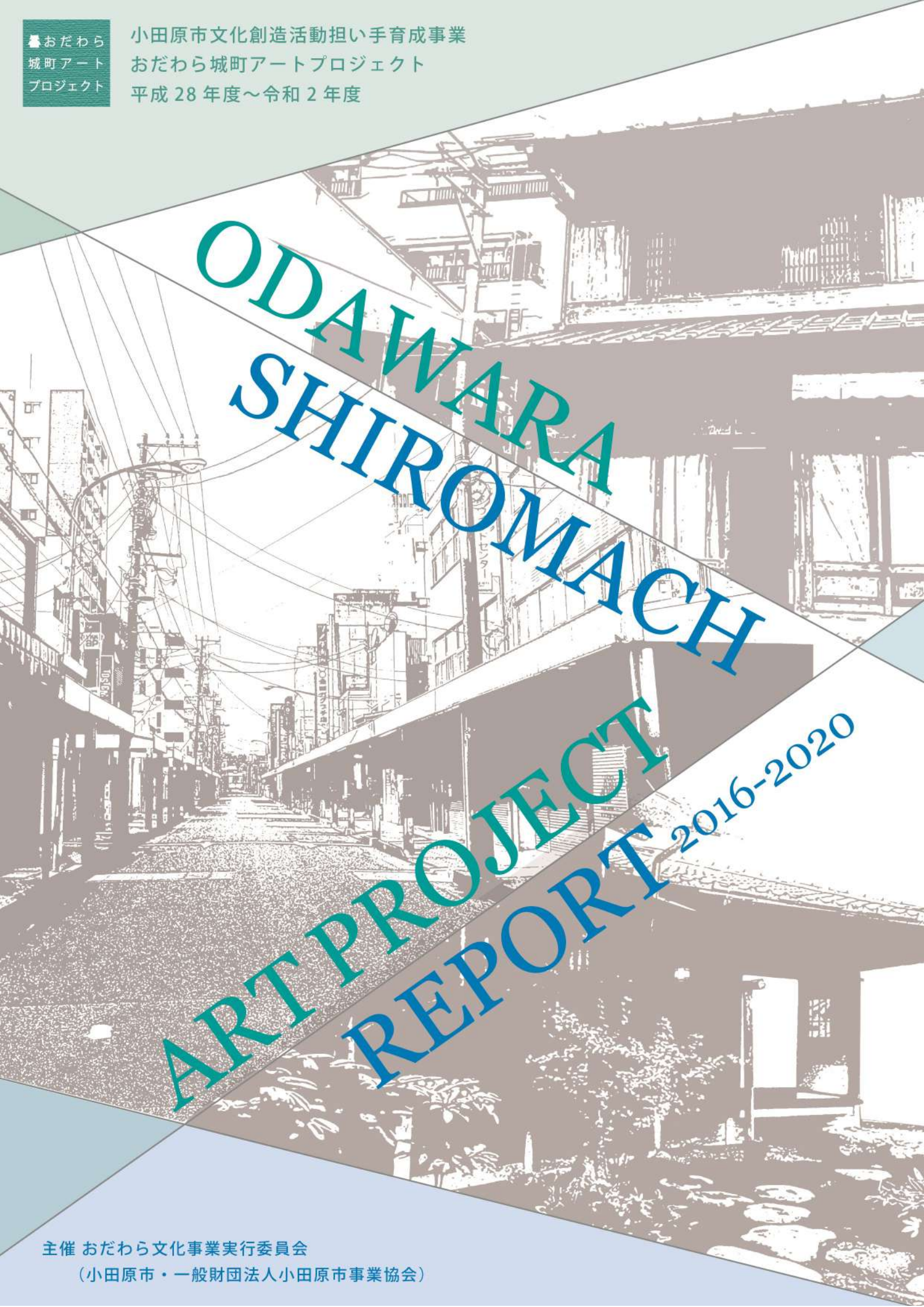


おだわら
城町アート
プロジェクト

小田原市文化創造活動担い手育成事業
おだわら城町アートプロジェクト
平成28年度～令和2年度



ODAWARA
SHIROMACH
ART PROJECT
REPORT 2016-2020

主催 おだわら文化事業実行委員会
(小田原市・一般財団法人小田原市事業協会)

まち 小路を歩くアートを歩く

■ 旧瀬戸たばこ店× 現代アート&クラフト展「出会いの間、賑わいの間」

日時 平成29年2月11日(土)～12日(日)、16日(木)～19日(日)

時間 10:00～16:00(19日～15:00)

会場 旧瀬戸たばこ店(小田原市本町)

出展 藤井 健司(美術作家)、赤猫工房、おお麻飾り 志音、gunung、ハギレ小物屋、k.m.

来場 434名

■ 旧松本剛吉別邸 雨香亭× 現代アート展「集いの間、独りの間 ～アートで茶室再生～」

日時 平成29年2月18日(土)、19日(日)

時間 10:00～16:00(19日～15:00)

会場 旧松本剛吉別邸 雨香亭(小田原市南町)

出展 朝比奈 賢(美術作家)、御幸 菜穂子(朗読家)、作品協力 利根川 佳江、ノモトヒロシ

運営 アートマネジメント・ワークショップ2016参加者

来場 286名

小田原市では市内の歴史的建造物を文化資源として活用することで、小田原固有の歴史的な風致を守り育て、次世代へ伝えていく活動に取り組んでいる。今回は、伝統と歴史を感じる建造物において、あえて現代のアートや芸術文化を展開することで、新たな発想や創造力を活用して、建物が本来持っていた魅力を再発見するきっかけを創るために展覧会を行った。歴史と現代の文化が融合することで、相乗効果により新たな魅力が生まれるのではないかと狙いがある。

今回は2軒の歴史的建造物を所有者から借用して展示を行った。1軒は、昭和初期の建物「旧瀬戸たばこ店」。京町屋を思わせる窓の格子が特徴的な2階の和室に、藤井健司氏の巨大の墨絵「心景 -SCENERY OF HEART-」を展示した。この建物に合わせて描かれた作品は、畳に座りながら鑑賞すると視界いっぱい画面が迫ってくる。藤井氏の作品は和紙や墨といった伝統的な素材を使いながらも、現代の感性で心の揺らめきやざわめきを画面に表現する。歴史と現代が交差する今回の企画に適した作家と言えよう。また、1階は店舗だった名残を活かし、地元のクラフト作家たちによるクラフトの展示と販売を行った。畳や土間上がりに座ってお茶を飲みながら作品を手にとって作家たちと語り合う体験が、懐かしさを感じるとともに新鮮に感じたこと好評であった。

もう1軒は旧松本剛吉別邸の敷地内にある茶室「雨香亭」。大磯在住で小田原とも縁が深い朝比奈賢氏に依頼、作家でありながら、西湘地区アーティストインレジデンスの運営関わるなどの実績から、空間全体のキュレーションもお願いした。「雨香亭」は、数寄屋造りの茶室で、玄関を中心に左右に2つの茶室を有し、朝比奈氏はこれらに「集いの間」「独りの間」と名付け対照的な空間を生み出した。真ん中に大きな炬燵が設置され、部屋に飾られた作品を見ながら語り合う集う間は庭から陽の光が注ぎ込み、明るく楽しい空間となった。対して独りの間は、陽の光を遮断した薄暗い空間に朝比奈氏が震災への祈りを込めて制作した平面作品「3.11への祈り」が無数の蠟燭の明りとともに床の間に飾られ、一人ずつ入場し、独りで作品と向き合う鎮魂の間を創りだした。

2軒の間は徒歩で10分程度、その道中には「欄干橋ちん里う」「済生堂薬局小西本店」など歴史を感じさせる店舗が点在し、武家屋敷の名残を忍ばせる西海子小路など東海道である国道1号線から入り込む無数の小路が存在する。歴史的建造物とともに、小路を歩いていただくことで改めて城町の魅力を発信していきたい。

企画・制作 松井真理子(小田原市文化政策課)

藤井 健司 Kenji Fujii

心景 -SCENERY OF HEART-

心景	1235 x 2460mm	墨、宣紙	2016年
心景	1235 x 2460mm	墨、宣紙	2016年
心景	1235 x 2460mm	墨、宣紙	2016年
心景	344 x 243mm	墨、宣紙	2016年
心景	344 x 243mm	墨、宣紙	2016年
心景	344 x 243mm	墨、宣紙	2017年

1981年東京生まれ、横浜育ち。現在、カナダと横浜を拠点に創作活動を行っている。

朝比奈 賢 Ken Asahina	3.11への祈り	キャンバス、油彩	2012
	考えの路	ブロンズ	2016
	未来へ咲け	キャンバス、和紙、油彩	2014
	間合いの力学	木、真鍮	2010
	考えを組む	木	2015
	小遊星	キャンバス、油彩	2013
	光の地図	ガラス、樹脂、油彩	2014
	交信する異次元Ⅱ	油彩	2013
	隠れた月	木、和紙、油彩	2014
	知性	木、和紙、寄木シート、油彩	2014
	内なる聖堂	油彩	2011

大磯在住。1974年生まれ。1997年アメリカVirginia Techへ交換留学。1999年横浜国立大学建築学科卒業後、2000年より絵画の制作活動を開始。2005年すどう美術館の海外研修生としてマドリッド留学。同地にて初個展。翌年すどう美術館「若き画家たちからのメッセージ展」すどう美術館賞受賞、個展。2011年西湘地区アーティストインレジデンス参加。2012年～2014年「東日本げんきアートプロジェクト」に参加し、被災地にて展覧会・コンサート・ワークショップを開催。その他、スペイン、ドイツ、アメリカのアートフェア出展。2016年スロベニアアーティストインレジデンス参加。その後、首都リュブリャナにて日本人現代美術展企画（日本大使館主催）。2014年より湘南アートベースを主催し、「小田原アートホテル」企画、2015年より「大磯アートハウス」運営。

御幸 菜穂子 Naoko Goko 雨香亭で聴く朗読 ことばに集う

朗読家。現代朗読協会所属。現在、アート作品がある空間で「アート×朗読パフォーマンス」を月1回開催中（大磯アートハウス）。その他、絵画×朗読ワークショップ、物語読み聞かせ、など声に関わるイベントを実施。楽器演奏家、舞踏家とのコラボレーションライブ出演歴多数。

利根川 佳江 Yoshie Tonegawa 心のフォルム 発泡スチロール、紙粘土、アクリル絵の具など
ノモトヒロシ Hiroshi Nomoto 微かな記憶 トタン板 2011

【同時開催】

■ **おだわら・コドモ・アートVol.15 アートハットをつくろう**

日時 平成29年2月18日（土）10:30～12:30
 会場 小田原宿なりわい交流館 2階（小田原市本町）
 講師 ミツ山 一志（造形家・横浜市民ギャラリー首席エディケーター）
 参加 小学生・保護者 21名

■ **アートめぐり×スタンプラリー**

日時 2月18日（土）、19日（日）10:00～15:00
 会場 旧瀬戸たばこ店・旧松本剛吉別邸・小田原宿なりわい交流館

旧瀬戸たばこ店

1928年（昭和3年）築・木造2階建て。米、油、肥料、煙草を販売していた米穀商（瀬戸米穀店）の商家。引き戸や窓、欄間の格子、幅広い天井板や廊下の床、神棚や鴨居の彫刻など、当時の町家建築の素材と技術をふんだんに利用して建てられたのが窺える。昔の小田原は、このような建物が並ぶ街並みだったという。表に面したガラス戸やタイル貼りのガラスケースはたばこ屋の面影を残している。建物西側外壁は歴史的建造物などの修復に必要な伝統工法の知識と技術を持つ職人を育成することを目的に、小田原大工職組合や南足柄大工職組合らの指導のもと、県立城北工業高校の生徒たちによる改修の研修が行なわれた。平成27年秋ごろまで店舗として使用されていた。

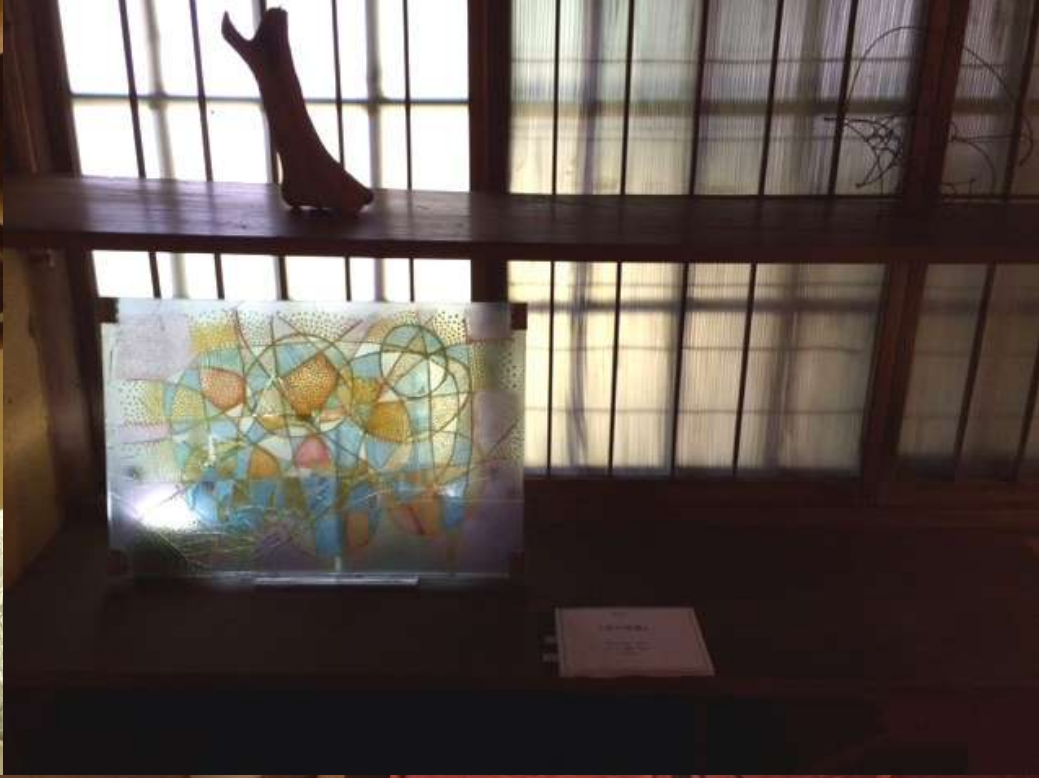
旧松本剛吉別邸 雨香亭

明治後期築・木造平屋建て、寄棟造り。この土地は山縣有朋の側近である松本剛吉の別邸だった。敷地利用や建物等は、山縣有朋の影響を受けたと思われる数寄屋風の主屋と別棟に草庵風の茶室「雨香亭」、庭園を見下ろす小高い丘に待合が備えられ、自然豊かな中に点在している。

旧松本剛吉別邸 雨香亭× 現代アート展
「集いの間、独りの間」



独りの間「3.11への祈り」朝比奈 賢



旧瀬戸たばこ店×現代アート&クラフト展
「出会いの間、賑わいの間」





「心景 - SCENERY OF HEART -」 藤井 健司

モスキートハウス 硬軟／道行 —みちき— 足立篤史

■ 旧瀬戸たばこ店×現代アート展「モスキートハウス 硬軟」／「道行 —みちき— 足立篤史」

日時 平成29年11月23日（祝）～11月26日（日）10:00～16:00（26日～ 15:00）

会場 旧瀬戸たばこ店・旧瀬戸米穀店（小田原市本町）

作家 足立篤史（現代美術作家） / 硬軟（現代美術作家）

キュレーター 坂田恭平（SOEL art office）

ゲスト 中野仁詞（公益財団法人神奈川芸術文化財団学芸員・第56回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館キュレーター）

来場 122名

本展は小田原市文化創造活動担い手育成事業として、旧瀬戸たばこ店と旧瀬戸米穀店で若手アーティストによる現代美術展を開催する。硬軟による「モスキートハウス」をたばこ店で、米穀店で足立篤史による「道行 - みちき-」をそれぞれ個展形式で展示する。

昨今の現代美術展において、美術館やギャラリーといった場所から離れて、古民家や廃校、劇場といった、美術作品の展示専門ではない建造物で開催されることが多くなった。この背景には、アーティストの表現が多様化しつつあることと、全国的な芸術祭の林立によって行政や自治体が施設活用を推進していることが挙げられる。これらで展示される作品のほとんどは「インスタレーション」と呼ばれ、作品が空間と調和し、建築物の本来持つ歴史や時間制を明らかにすることを良しとしている。

旧瀬戸たばこ店で展示する硬軟は、煙草の増税や分煙、嫌煙化によって年々減少している喫煙者を未来の絶滅危惧種と捉え、その姿を忌み嫌われながらも何万年も同じ姿で生きてきた蚊と重ね合わせ、コハクになることによって価値が逆転する構造を予見する。さらに、これらの駆逐手段として蚊取り線香を蛍光塗料として、喫煙所での路上演説による政治的弾圧を映像記録として「発光」させることによって、本来存在しているはずの駆逐されるべき対象である喫煙者と蚊を想起させる。旧瀬戸米穀店で展示する足立篤史は、倉庫の天井高を利用して新聞紙によって作られた式神が降り注いでいる空間を作り上げた。そこへ、タイプライターを中心に巻き起こる式神の竜巻に向かって、3 隻の戦艦が舵を切っている。これらも全て新聞紙で作られ、戦時中といった、それぞれの戦艦が歴史的に製造された当時の記事が使われている。文字という呪術が刻まれては破棄され、輪廻転生のごとく生死を繰り返す再生紙によって作られた作品群は、歴史化されていく情報によって物質的強度が担保され、その存在感によって見る者を圧倒する。

硬軟の実体を消す作品の制作手法と、足立の質量を強調する空間構成という対極の位置にありながらも、どちらも建築物の空間が本来持っている質量的、時間的な余韻を活かし、普段の古民家の景色を一変させている。これこそが現代美術の持つ力であり、視覚的情報を変えることによって鑑賞者に多角的な視点と気付きを与え、豊かな想像力へと導いていくであろう。

キュレーター 坂田 恭平

足立 篤史 Atsushi Adachi

Operation Crossroads
炎舞

1988年神奈川県横須賀市生まれ、2014年東京造形大学美術学科彫刻専攻修了。主に紙、活字媒体（新聞など）を素材に制作。それまで人間が経験した遠い昔の記憶の中にあるモノを今の時代に具現化している。作品形態にこだわらず、様々な方法で表現活動を行う。日本国内だけでなく、海外でも勢力的に作品を発表。

硬軟 Kounan

ラストスモーカー
モスキートハウス
ビックフット

現代美術作家 千葉大二郎によるプロジェクト。2014年末始動。主に屋内外でのパフォーマンス・プロジェクトを中心に活動。速記技能検定6級所持。

坂田 恭平 Kyohei Sakata

2016年多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程絵画専攻日本画研究領域修了。同年「SOEL art office」設立。アートによるクリエイティブの創出と活用を目的として、展覧会事業を中心としたキュレーションと現代美術作品の制作・発表を行う。湘南のクリエイティブスタジオ「1761studio」を拠点に活動。

■キュレータートーク

日時 平成29年11月23日（祝）14:00～15:00

会場 旧瀬戸たばこ店

出演 作家、キュレーター、ゲスト

■ビックフットとカラダで絵を描こう

日時 平成29年11月26日（日）10:00～13:30

会場 小田原まちなか軽トラ市会場

出演 硬軟

旧瀬戸たばこ店×現代アート展
「道行 ーみちきー」 足立篤史



Operation Crossroads
足立 篤史



炎舞 足立 篤史



ビックフット 硬軟

旧瀬戸たばこ店×現代アート展
「モスキートハウス」 硬軟



空の光 鈴木泰人

■ 商店街×現代アート「空の光」鈴木泰人

日時 平成30年8月4日(土)・5日(日) 17:00~20:30

会場 旧松浦スポーツ店(小田原市栄町)

作家 鈴木泰人(現代美術作家)

キュレーター 中野仁詞(公益財団法人神奈川芸術文化財団学芸員・第56回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館キュレーター)

キュレーターアシスタント 結城鷹

参加 300名

明滅のリズム 小田原を照らす空の光

城下町として全国的に知られる小田原。その商店街を活用して現代美術を展開することは、小田原という場所で新しく創造される新しい美術の価値に触れようと市外から訪れる鑑賞者が、現代美術を通して市民と積極的に交流する機会と言える。今回は、光の性質を研究、多角的に光の可能性を追求し現代アートとして作品化する鈴木泰人さんに製作を依頼した。会場は、銀座通り南街区の旧松浦スポーツ店だ。美術作家はホワイトキューブという白い壁をもつ美術の展示施設で作品を展示することが一般的だが、今回のように、店舗の通りに面する壁が一面ガラス張りという会場を使うことは、よい意味で痺れる体験となろう。それを逆手にとって楽しみながら、質の高い作品を創造してくれると確信し、鈴木くんを選んだというワケだ。家主さん宅の倉庫にしまっていた釜、工具、靴、玩具などの日用品などを巧みに会場内に並べ、そこに周到に計算された光をあてる。作家が創造したこの光は、ほかならぬ「小田原」にしかない光である。たった2日間という短い期間にしか享受できない光。しかし、この光はいつまでも「小田原の光」として作品を体感した人の記憶の中に留まることだろう。

キュレーター 中野仁詞

鈴木 泰人 Yasuhito Suzuki

空の光(カラノヒカリ)

キャンバスにアクリルインク

松浦スポーツ店舗の備え付け野外灯

自然光 照明 調光プログラム

家主の古道具・家具

1979年 神奈川県出身、神奈川県在住。2011年多摩美術大学 大学院美術研究科 油画専攻 修士課程 修了。光や場所を題材にして、インスタレーションやタブロー、プロジェクトアート、パフォーマンスアートなど、多様な表現方法により発表をしている。

一貫したテーマである「距離を測る」作品は、地域や企業と取り組むアートプロジェクトで数多く採用され、作品制作のプロセスにおける会話から物語づくりを、多分野に応用する試みも同時に行っている。2017年現代美術と建築に特化したart unit OBIを結成し、合同会社OBIを設立。共同代表をつとめる。

中野仁詞 Hitoshi Nakano

神奈川県出身、在住。公益財団法人神奈川芸術文化財団学芸員。第56回(2015年)ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館/ヨコハマトリエンナーレ2017キュレーター。芸術資源マネジメント研究所研究員。東海大学/女子美術大学非常勤講師。

神奈川県民ホールギャラリーやKAAT神奈川芸術劇場で企画した主な展覧会に、塩田千春展「沈黙から」(2007年)、「日常/場違い」展(2009年)、「日常/ワケあり」展(2011年)、「さわひらき展「Whiri」(2012年)、「日常/オフレコ」展(2014年)、「塩田千春展「鍵のかかった部屋」(2016年)、「詩情の森 語りかたられる空間」(2017年)、他。

慶應義塾大学大学院美学美術史学専攻前期博士課程修了。

■作家 鈴木泰人×キュレーター 中野仁詞トーク

日時 平成30年8月4日(土) 19:00~19:40

会場 Bread&English Pub Desture

出演 作家、キュレーター

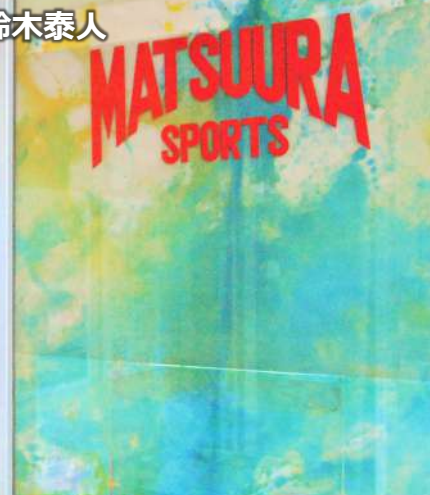
参加 30名

■小田原まちなか軽トラタ市

日時 平成30年8月5日(日) 17:00~20:30

会場 銀座通り南街区

商店街×現代アート
「空の光」 鈴木泰人



記憶のノゾキミ

■ 現代アート展&パフォーマンス「記憶のノゾキミ」

日時 令和元年11月23日(土)、24日(日)、30日(土)、12月1日(日) 10:00~16:00

会場 オービックビル(小田原市栄町)、旧松浦スポーツ店、旧瀬戸米穀店

作家 小川 敦生、柴田 純椰〔キュレーター 結城 鷹〕、横井山 泰、m.yam clayworks

出演 松岡 大(舞踏家)

キュレーター 住 麻紀(Scale Laboratory)

来場 556名

知らない小田原(まち)との出会い方

このプロジェクトは、小田原の街中、特に観光ルートからは外れ、街の人の足も遠のきがちな昔ながらの商店街や、歴史を伝える古い建造物と、現代アートのジャムセッションを行うものです。

今も昔も交通の要所で、首都圏とその外側を緩やかにつなぐ街である小田原には、確固とした街のアイデンティティがあるように見えます。しかし、他の地方都市と同様に、観光地以外の中心市街地が空洞化し、空き店舗が目立つという声も聞こえます。そんな中で、アートと街(建物、商店のみなさん、店構えなど、そこにあるものすべて)が呼応し合うことで、人々と街との接地面を広げ、知っているつもりだった身近な風景を見違えさせることができるかもしれない…このプロジェクトは、そんな企てです。

私は県外(と言っても2つ先の宿場・三島で、小田原は北条氏仲間とっていますが)から参加する、いわば「親愛なる異邦者」で、今回参加する5組のアーティストも同様に、小田原と近い距離で関わりを持って作品制作に臨んでいます。現代に生きるアーティストから生まれる表現によって、様々なレイヤーで“街の記憶”が呼び起こされたり、重なったり、新しく作られる瞬間を、多くの方と共有したいと思っています。

4日間の短い間ですが、キュレーターと作家のクロストークや、アートショップ、作品や街並みと絡み合うダンスパフォーマンスと、街の空気にアートの成分を注入します。街とアートを巡りながら、そこに染み込んだ様々な記憶を“のぞき見る”機会となれば幸いです。

キュレーター 住 麻紀(Scale Laboratory)

小川 敦生 Atsuo Ogawa ghost catcher 窓、鏡、アクリル板に、チョークマーカー 2019
サインペンでドローイング

1969年 神奈川県生まれ 神奈川県在住。

手で描くことに拘りながらも、まるで線が勝手向かうところに任せて…反復、逸脱、展開…描き編むドローイング作家。一本の線から成る輪として完成するドローイングは一種文様めいて、平面に限らず折々の機会に応え、様々な素材、媒体の上を走っています。

柴田 純椰 Junya Shibata Sleeping Dog シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド、ループ
Untitledシリーズより5点 紙にインク、または鉛筆

1994年東京都生まれ。2018年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。

廃墟や樹海のような人が関わりを持たない場所やそこに漂浪する残留物たち、その一つ一つが別々の記憶を持った存在であると捉え、それらの変様の過程や記憶の所在点、物質と記憶の結びつき方などを主題にして自身の表現を展開。また最近では周囲の環境や変化する感情など自身を取り巻く諸現象と主体的表現の連続性を、日々のルーチンワークとしてのドローイング行為で切り取ることによって顕在化を試みている。

今回の展示では結城鷹がキュレーションを担当。

結城 鷹 Yo Yuki

1995年東京都生まれ。多摩美術大学在学中には作品制作を行いながら様々な現代美術の展示の現場を経験。卒業後にはKAAT神奈川芸術劇場『さわひらき 潜像の語り手』(2018)、『小金沢健人 Naked Theatre -裸の劇場-』(2019)のキュレーターアシスタントを務めた。昨年のおだわら城町アートプロジェクト『鈴木泰人 空の光』にも同アシスタントとして参加。

横井山 泰 Yasushi Yokoiyama	おだわら行列	3,636×2,273mm	Acrylic on Canvas	2019
	将軍	910×910mm	Acrylic on Canvas	2016
	午睡	410×410mm	Oil on Canvas	2019
	迷惑なはなし	1,455×1,120mm	Oil on Canvas	2003
	誰かいる	1,455×1,120mm	Oil on Canvas	2003
	おめん	Acrylic on Clay	A 赤兎馬 B 人気物 C イカ D 古猫 E キャラメル F 酔象 G 月光 H 微笑 I 内侍	

1976年 静岡県伊豆の国市生まれ
 2001年 多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 2003年 多摩美術大学大学院美術研究科油画専攻修了
 2003年 「TAMA・デ・アート」奨励賞
 2004年 「第7回岡本太郎記念現代芸術大賞展」特別賞
 2005年 「シェル美術賞2005」本江邦夫審査員奨励賞
 2010年 文化庁新進芸術家海外研修員としてパリに滞在（～2011年）
 小田原市在住。

m.yam clayworks 陶と文章 陶、紙 2019

1968年 大阪市阿倍野区生まれ
 1986年 上京し、映像、デザインを学び、編集プロダクションに勤務。グラフィックデザイン、イラストレーターとして雑誌のカットや4コママンガなど担当。小林三千夫氏に師事。
 2000年 「m.yam clayworks」として独立。設寮。

松岡 大 Dai Matsuoka

舞踏家。上智大学卒業。桑沢デザイン研究所卒業。2005年より山海塾に舞踏手として参加。「金柑少年」「とぼり」「うむすな」「めぐり」などの主要作品に出演中。2011年より、街を歩きながらミュージシャンとダンサーによるライブを鑑賞するウォーキング形式のパフォーマンスイベント「LAND FES」を主催。障がいの有無に関わらず子どもたちとアーティストがともに創りあげるインクルーシヴワークショップ「音ととと」主催。2016年12月には、故・蜷川幸雄氏の遺志を引き継いだ、高齢者による世界最大級の群集劇「一万人のゴールドシアター2016」にてムーヴメント演出のディレクションを務めるなど、多方面で活躍。2016年よりNPO法人ダンスアーカイヴ構想理事。Scale Laboratoryメンバー。小田原市では障がいの有無に関わらず子どもたちとアーティストがともにダンスを創る「スクランブル・ダンスプロジェクト」の講師を務める。

■審査員・アーティストクロストーク

日時 令和元年11月23日(土) 15:00-16:30
 会場 三区公民館
 出演 作家、キュレーター、公募審査員
 参加 30名

■松岡 大 パフォーマンス

日時 令和元年11月30日(土) 16:00-16:30
 令和元年12月1日(日) 11:30-12:00
 会場 旧瀬戸米穀店、オービックビル
 来場 90名

■松岡 大 パフォーマンス松岡 大 クロッキー会

日時 令和元年12月1日(日) 10:00-11:00
 会場 オービックビル
 参加 12名

■SaMAL アートリンクキャラバン

みんなの芸術祭会議2019@小田原
 日時 令和元年11月24日(日) 16:00-18:00
 会場 オービックビル
 参加 24名
 主催 相模湾・三浦半島アートリンク (SaMAL)

■小田原まちなか軽トラ市

日時 令和元年11月24日(日) 10:00-13:30
 会場 銀座通り南街区

作家公募

応募者 19団体・決定2団体
 審査員 中野仁詞、平井宏典、小林絵美子、
 住 麻紀、牛山恵子

現代アート展&パフォーマンス
「記憶のノゾキミ」



ghost catcher 小川 敦生



パフォーマンス 松岡 大
〔ドローイング 小川 敦生〕



Sleeping Dog 柴田 純椰
〔キュレーター 結城 鷹〕



Untitled 柴田 純椰



午睡 横井山 泰



おだわら行列 横井山 泰



パフォーマンス 松岡 大
〔おめん 横井山 泰〕



ハレとケ交差点

■ 現代アート展

日時 令和3年3月26日(金)～28日(日) 10:00～16:00

会場 オービックビル(小田原市栄町)

作家 蓮沼 執太(音楽家・アーティスト)、鈴木 雄介(スズアコーヒー店 焙煎士、DJ)、菅沼 朋香(生活芸術家)、横井 山 泰(美術作家)、朝比奈 賢(美術作家)

来場 582名

※緊急事態宣言発令のため2度の延期の末、開催。

(当初) 令和2年2月20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)

(延期) 3月13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)

(再延期) 3月26日(金)、27日(土)、28日(日)

時を超え、非日常(ハレ)と日常(ケ)をたゆたう。

「ハレ」と「ケ」という概念は、民俗学者の柳田國男氏が定義した日本人の伝統的な世界観です。結婚式や成人式、祝祭など非日常の特別な場を「ハレ」、対して普段の日常生活を「ケ」と区分していました。今回舞台となるオービックビルは、「地域における文化の発信地」になることを願った地権者たちが共同出資し、複数オーナー管理のビルとして昭和56年に生まれました。以降、本屋やレコードショップ、居酒屋、美容院、雑貨屋、服屋、カルチャー教室、広告代理店、起業したばかりのIT企業など、様々なテナントが利用してきました。夜市「ナイトバザール」やコンサート、寄席、納涼大会といったイベントも開催され、多くの人で賑わったこのビルは、人々にとって毎日の生活に少し特別な楽しみを与えてくれる「ハレ」と「ケ」の混ざり合う場でした。しかし、近年は建物が老朽化、空きテナントが目立つようになり、4月からは再開発計画が開始されます。

今年度の「おだわら城町アートプロジェクト」では、オービックビルの最後の時にアートを交差させることで、かつての「ハレ」と「ケ」の場の痕跡を可視化できればと考えました。市内外の5名のアーティストにオービックビルの各所に映像、音楽、平面、立体、インスタレーションの作品を展示していただきました。そのほとんどが昨年から今年のコロナ禍において制作された作品です。現在、新型コロナウイルスの感染拡大により生活が制限され、身の回りの日常「ケ」について考える機会が増えたのではないかと思います。今となっては当たり前で過ぎていたはずの日常が非日常(ハレ)の場となっていました。ハレとケの確固とした線引きができない、不確定なゆらめきの中にいる今だからこそ、無意識に通り過ぎていくいつもの街、いつもの日常を見つめてみてください。そして、新たな発見や気づきを得て、明日からの生活の希望へと繋がることを願います。最後に、度重なる内容や日程変更に対応していただきましたアーティストの皆様、出店者の皆様、ご協力いただきました関係者の方々、そしてコロナ禍にも関わらずご来場くださった皆様、そして40年間小田原の街を支えてきたオービックビルに感謝申し上げます。

おだわら文化事業実行委員会 高橋 歩美

蓮沼 執太 Shuta Hasunuma (音楽家、アーティスト)

音楽家、アーティスト。1983年東京都生まれ。蓮沼執太フィルを組織して国内外でのコンサート公演をはじめ、映画、演劇、ダンス、CM楽曲、音楽プロデュースなど、多数の音楽制作。また「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、展覧会やプロジェクトを行う。主な個展に『Compositions』（ニューヨーク・Pioneer Works 2018）、『～ing』（東京・資生堂ギャラリー 2018）など。最新アルバムに、蓮沼執太フルフィル『FULLPHONY』（2020）。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。<http://www.shutahasunuma.com>

鈴木 雄介 Yusuke Suzuki (スズアコーヒー店 焙煎士、DJ)

2011年「J. C. Q. A. 認定コーヒーインストラクター1級」取得。2013年「J. C. Q. A. 認定生豆鑑定マスター」取得。* J. C. Q. A. とは、農林水産省認可法人「全日本コーヒー商工組合連合会」が行う、日本初のコーヒーに関する資格認定制度。DJとして□□□（クチ□□）、the coffee group（小説家、音楽家、画家、シンガーソングライター、DJのユニット）、submarine等の作品やLiveに参加。コーヒー提供で参加。コーヒーと音楽の愉しみ方を日々探求している。<http://suzuacoffee.com/>

OdawaraHaretoke (蓮沼、鈴木共同制作)

時間：46分16秒 2021

録音場所：大手門跡鐘、小田原駅東海道線、柏木美術鋳物研究所、スズアコーヒー店、箱根寄木細工露木木工所、御幸ヶ浜



【録音風景動画】

菅沼 朋香 Suganuma Tomoka (生活芸術家)

ニューロマン 都会編 2017

ニューロマン ニュータウン編 (予告) 2017

ニュー・ウェディング 2018 - 2021

生活芸術家。東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。昭和の高度成長期と自身の関係をテーマに人生の再現ドラマ「ニューロマン」シリーズを制作。2017年に自身のルーツであるニュータウンを題材にした作品を作るため、埼玉県の超高齢ニュータウンに移住。アートプロジェクト「ニュー喫茶幻」「空家スイーツ」を進行中。主なグループ展にあいちトリエンナーレ2013、六甲ミーツアート2016など。

<http://suganumatomoka.com/> <https://www.akiyasweets.com/>

横井山 泰 Yasushi Yokoiyama

初冠 2021

さよならの白 2021

1976年 静岡県伊豆の国市生まれ

2001年 多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻卒業

2003年 多摩美術大学大学院美術研究科油画専攻修了

2003年 「TAMA・デ・アート」奨励賞

2004年 「第7回岡本太郎記念現代芸術大賞展」特別賞

2005年 「シエル美術賞2005」本江邦夫審査員奨励賞

2010年 文化庁新進芸術家海外研修員としてパリに滞在（～2011年）

小田原市在住。

朝比奈 賢 Ken Asahina (美術作家)

「地殻変動」	油彩、キャンバス	145.5×112cm (F80)	2020
「瞑想の道」	油彩、キャンバス	72.7×60.6cm (F20)	2020
「流転」	油彩、キャンバス	72.7×60.6cm (F20)	2020
「知恵の集まり」	油彩、キャンバス	53×45.5cm (F10)	2020
「胎内の星」	油彩、キャンバス	145.5×112cm (F80)	2017
「出会い」	油彩、キャンバス	60.6×72.7cm (F20)	2017
「観音」	槐 (えんじゅ)	34×7×4.5cm	2016
「未来へ咲け」	キャンバス、和紙、油彩	50F	2014
「ある聖堂」	ジュート麻 (コーヒー袋)、油彩	30F	2011

オービックビル創設者二宮秀夫さんの思想と人生をテーマにした作品

「ある魂の生涯」	アルシュ紙、透明水彩	33.3×24.2cm (F4)	2021
「闇に浮かぶ道」	アルシュ紙、透明水彩	33.3×24.2cm (F4)	2021
「我々は将棋の駒」	アルシュ紙、透明水彩	33.3×24.2cm (F4)	2021
「置屋の娘」	アルシュ紙、透明水彩	24.2×33.3cm (F4)	2021
「死の四択 I」	アルシュ紙、透明水彩	33.3×24.2cm (F4)	2021
「死の四択 II」	アルシュ紙、透明水彩	24.2×33.3cm (F4)	2021
「商売と道徳」	アルシュ紙、透明水彩	33.3×24.2cm (F4)	2021
「自分が変われば人も変わる」	アルシュ紙、透明水彩	24.2×33.3cm (F4)	2021
「空へ還る」	アルシュ紙、透明水彩	33.3×24.2cm (F4)	2021
「オービックの守り神／スケッチ」	紙、鉛筆、ボールペン	16.5×24.4cm	2021

1974 愛知県名古屋市生まれ 神奈川県大磯町在住

1997 バージニア工科大学・交換留学

1999 横浜国立大学建築学科卒

以後、独学で絵画を学ぶ

2005 すどう美術館・海外研修生としてマドリッド留学。初個展。

以後、欧米のアートフェアを中心に作品発表

国際交流企画・主催プロジェクト

2017 日本・スロベニア現代美術展 (日・ス国交樹立25周年事業)

2018 アーティスト・イン・レジデンス箱根

2019 日本・ポーランド現代美術展 (日・ポ国交樹立100周年事業) 他

湘南アートベース代表 <https://shonanartbase.wixsite.com/shonan-art-base>

【プレイベント】

■オンライン路上観察ワークショップ「まちハント」

日時 募集：令和2年9月1日(火)～令和3年1月31日(日)

展示：令和3年3月26日(金)～28日(日) 10:00～16:00

会場 オービックビル

■ミライトーク「まちの魅力をみつける・つなげる・創造する」

※緑一番街商店会「ブックトークvo.20」とのコラボ企画

日時 令和2年11月14日(土) 16:20～17:20

進行 平井 宏典(真鶴まちなれディレクター、和光大学教授)

会場 オービックビル

来場 32名

【会期中イベント】

■アートトーク「これからのプロジェクトについて考える」※ZOOMでの開催に変更

日時 令和3年3月13日(土) 18:30～20:00

登壇 平井 宏典(和光大学准教授)、羽鳥 裕子(原泉アートプロジェクト代表)、銚井 喬(原泉アートデイズ!参加作家)

来場 13名

■おだわら・コドモ・アート「出張!カラーテープアート!たくさんのお花を咲かせよう!」

ビルの中をカラーテープで作ったお花でいっぱいになりました。

講師 東 麻奈美(油彩画家)

日時 令和3年3月28日(日) ①10:30～11:30 ②13:00～14:00 ③14:30～15:30

会場 オービックビル

来場 20名

■オービックバザール

飲食、雑貨などを中心に、さまざまなお店が出店。かつて行われていた「ナイトバザール」のような賑わいの空間が甦りました。

出店 Batamaru、Homely_Design、Tipy recods inn、toko_gunung、ぶこつそこつ、道草書店

※sent.は都合により出店中止

日時 令和3年3月28日(日) 10:00～16:00

■オービックアーカイブ

かつてオービックビル内で活動していた会社やお店にご協力いただき、展示・紹介ブースにて歴史を振り返りました。

参加 Hamee株式会社、ジュエリーシマノ

■朗読劇・コンサート 芝居屋xわをん ※中止となりました。

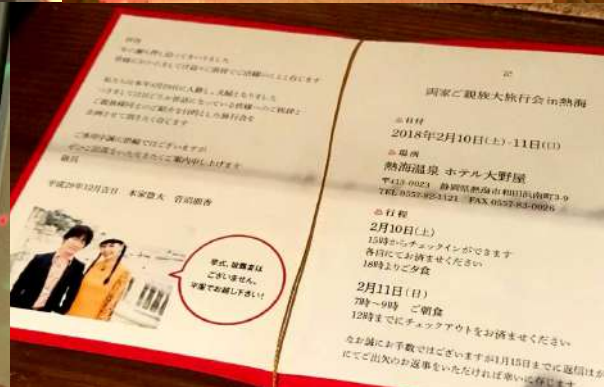
■街かど上映会「小田原映画祭SPECIAL」※中止となりました。

■協賛

※緑一番街商店会、ほっとファイブタウン、Hamee株式会社



菅沼 朋香



ニューロマン 都会編



横井山 泰



さよならの白



初冠



朝比奈賢

オービックビル創業者 三宅秀夫さんの思想と人生をテーマにした作品



説明書

説明書

説明書

説明書

説明書

オービックの守り神/スケッチ



心の裸

死の四択 I



観音



Handwritten notes and sketches, including a diagram of a dog and various text fragments.

オービックビル年表
オービックビルのできごとを通して、小田原、日本、世界とのつながりを見つめました。
また、人（オービックビル創業者、現オーナー、事務局長）のつながりを考えました。

Table with columns for year, event, and person. Includes handwritten notes and names like 三宅秀夫.

Table with columns for year, world events, and things that can be done in Japan. Includes handwritten notes.

会場風景



アートトーク

経緯

- 4月7日 7都府県に緊急事態宣言
- 9日 参加アーティストとのオンラインセッション開始
- 16日 全国に緊急事態宣言
- 5月4日 美術館等で感染防止策を講じた上で開放（が可能）
- 6日 原泉アートフェスティバル2020 開催発表
- 14日 静岡県等で、緊急事態宣言解除
- 25日 全国で緊急事態宣言解除

- *その間、全ての国内外アーティストと2週間に1度、セッショントーク。
- *アーティスト・イン・レジデンスするオープンできない状況だった。
- *何が起ころうともおかしくない状況で、必ず予定通り10/15から開催できる手法を模索し続けた。
- *「郵送」というアイディアがどこからともなく持ち上がった。

5月26日 絆井氏とのセッションで『想像する展覧会』の骨格が出来上がる
 6月20日 オンラインメディアの告知により、全国から申し込みスタート！
 29日 チラシ完成
 7月 4日～ アーティスト経由の募集を（こっそり）開始
 8日 オンラインメディアの告知により、全国から申し込み。翌日には定員100名が満席に。
 10-26日 抽選で2次募集開始
 8月上旬～ 1回目分を全国の参加者132名に送り届けた。

これは、新しい提案です。想像する展覧会



ミライトーク

おだわら・コドモ・アート



オービックアーカイブ



オービックバザール



まちハント

おだわら城町アートプロジェクト報告書 平成28年度～令和2年度

主 催 おだわら文化事業実行委員会（小田原市・一般財団法人小田原市事業協会）

発 行 〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪300番地

TEL 0465-33-1706 FAX 0465-33-1526

編 集 文化政策課芸術文化創造係 松井 真理子・高橋 歩美



【facebookページ】

